

平成25年度日本教職大学院協会「実践研究成果公開フォーラム」発表日程

開催日：平成25年12月7日(土)

第1会場(多目的室1)

14:15～15:45 聖徳大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
理論と実践の融合を図る地域体験型授業の開発 —「地域学校事例研究」の実践を通して—	壺内 明 (聖徳大学教職大学院教授) 橋戸雅夫 (聖徳大学教職大学院教授) 西崎勝則 (聖徳大学教職大学院教授) 一ノ瀬喜子 (聖徳大学児童学科教授) 渡邊恒雄 (聖徳大学児童学科教授) 宮田優香里 (聖徳大学教職大学院生)	家庭や社会のありようが大きく変化している今日、保護者や地域住民に開かれ、地域の特性を生かした特色ある学校づくりが強く求められている。聖徳大学教職大学院では、そうした背景を踏まえ、「地域学校事例研究」の科目を設定し、地域と連携・融合した教育活動の在り方について、理論的基礎の上に、事例研究、実地調査、現地訪問によるフィードバック等を通して理解を深め、経営的力量や実践力を身に付けてきている。そこで、理論と実践の融合を図るこうした地域体験型授業の一端を報告する。

16:00～17:30 創価大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
〈授業→実習→教職課題研究→修了後の実践〉の連続性で成果を生み出す —「道徳的価値の自覚を図る共有体験のあり方」の研究を例に—	石丸憲一 (創価大学教職大学院教授) 富井愛枝 (創価大学教職大学院修了生)	教職大学院で目指している理論と実践の融合(架橋)については、具体的にどのような方略により、どのような形を目指すのかということについては未だ明確になっていない。そこで、創価大学教職大学院の教育活動の中で、入学から現場に復帰した現在までの長いスパンの中で実現できたと考えられる修了生の実践から、〈授業→実習→教職課題研究(教職課題研究論文の作成)→修了後の実践〉の連続性が成果を生んだ例を挙げることで理論と実践の融合の一つの形を示したい。

第2会場(多目的室2)

14:15～15:45 北海道教育大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
学校と直結したカリキュラムの工夫 —協働遂行力を核としながら—	大久保和義 (北海道教育大学教職大学院長) 龍島 秀広 (北海道教育大学教職大学院准教授) 久々江史也 (北海道教育大学教職大学院修了生) 吉田ゆかり (北海道教育大学教職大学院修了生)	現在の学校では、学校内での教職員間の協働、学校外の様々な機関、人々との協働がなければ対応が難しい問題が増加しており、教師には、そのような協働する力が求められている。本発表では協働遂行力などを核として、現在の学校で教師に必要な様々な知識、実践力を身につけてもらうための当教職大学院のカリキュラムの工夫を紹介する。さらに、そのカリキュラムで学んだ修了生2人に、学びの成果として「養護教諭の立場での協働性の構築」「職員室の活性化」という学校内での協働について発表してもらう。

16:00～17:30 山形大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
実践と理論を架橋する教員養成カリキュラムの開発 ①「学校の防災管理と防災教育充実のための取組 —東日本大震災の教訓をふまえて—」 ②「多様性をもった教育実習の展開」	村山良之 (山形大学教職大学院教授) 三浦登志一 (山形大学教職大学院准教授) 江間史明 (山形大学教職大学院教授)	山形大学教職大学院では、「学校の安全と防災教育」を共通科目とする(①)一方、多様な教育実習の場(②)を設けてきた。①では、学校の防災管理の見直し、児童生徒による臨機応変の行動と事前準備行動、学区の自然的条件(対象とすべきハザード及び素因としての土地条件)理解等の重要性を再確認し、内容の改良を重ねている。②では、10週間の教育実習(教職専門実習ⅠからⅢ)に加えて、「都市圏実習」、「異文化圏実習」を応用実習科目としている。本フォーラムでは、これらのカリキュラムの概要と院生の変容について報告したい。

第3会場(多目的室3)

14:15~15:45 福井大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
教師の実践的指導力を高める職能開発とは —学校拠点方式の長期インターンシップおよび教員研修を通して—	木村 優 (福井大学教職大学院准教授) 金森 誠 (福井県教育研究所教職研修課主任) 中村 諒 (福井大学教職大学院院生)	福井大学教職大学院では、知識社会に生きる子どもたちの学びを支える学校と教師の実践的指導力を高める職能開発を行うために、教育委員会との協働連携に基づく「学校拠点方式」を採用している。本発表ではまず、本教職大学院の理念、「学校拠点方式」を基軸とした教育課程と実際の取組を概観、報告する。その上で、学部卒院生の長期インターンシップによる学びの過程と成果を報告し、続けて平成24年度から福井県教育研究所が本教職大学院との協働連携に基づきスタートした「ミドルステップアップ研修」の展開と成果を報告する。

16:00~17:30 山梨大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
OPPA(One Page Portfolio Assessment)の理論と実践	堀 哲夫 (山梨大学教職大学院教授) 神澤恒治 (山梨大学教職大学院修了生)	OPPAとは、教師のねらいとする授業の成果を、学習者が一枚の用紙OPPシートの中に授業前・中・後の学習履歴として記録し、その全体を学習者自身に自己評価させる方法をいう。その構成は、学習前・後の本質的な問い、学習履歴、シート全体を振り返る自己評価である。シートの最も基本的な使い方は授業評価と改善である。今回はそれ以外の活用方法を提案する。堀がOPPAの概要を、神澤が高校生物の中で一年間シートを活用した具体的内容を基にしてその授業を受けた生徒に「学力とは何か」を考えさせる授業を行ったので、その概要と成果を報告する。

第4会場(多目的室4)

14:15~15:45 奈良教育大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
修了生の継続的な職能(キャリア)成長支援と連動した在学院生の実践力向上の試み	松井秀史 (奈良教育大学教職大学院特任准教授) 吉田 誠 (奈良教育大学教職大学院教授) 松浦 慎 (奈良教育大学教職大学院院生)	本発表では、修了生の研究意欲を維持し、生涯にわたって学び続ける教師を支援する試みについて報告する。具体的には、修了生等が講師として教職大学院にホームカミングし、現役院生や学部学生に実践報告やレクチャーを通じて、院生等の教科力・実践力を高めることにつなげる取組である。また、そのことが結果として、1)修了生の学校現場におけるリーダーシップの向上、2)在学院生等の学校実習における学びの深化、採用後の実践イメージ形成、学校で勤務することの見通しの付与、将来展望を導く効果があったことを報告するものである。

16:00~17:30 鳴門教育大学教職大学院

発表題目	発表者	概要
継続学習型(学び続ける教員育成型)のカリキュラム —学校で指導力を期待される幅広いキャリアに対応した教師教育の実現を目指して—	前田洋一 (鳴門教育大学教職大学院教授) 鳴門教育大学教職大学院現職院生	これからの教員には、「正解のない課題に取り組んで、他の人々とも協力して、解決策を考案し取り組んでいく」という実践力が求められている。そのためには、既習の知識・スキルや経験を使いこなす実践ではなく、「教育とは」、「学校とは」、「教師とは」という本質的な対峙していく力が必要である。 鳴門教育大学では、共通科目、演習、実習などを有機的に連動させ、これらの本質的な問いを考えていく力の育成を目指している。本報告は、カリキュラム全体の構想とコアとなる演習について報告する。

(注)進行の状況により、発表時間が若干変更する場合があります。

平成25年度日本教職大学院協会 実践研究成果公開フォーラム会場配置図

東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 2階

